

兒の痛む所をさすつてやると共に幼児をして柱をさすらせるのがよろしい、そうすれば幼児は大に同情を養はれるのである。其他感情教育に關する斯くの如き例は度々起り易いものである。(つゞく)

### 奇妙な動植物 (つゞき)

田寺寬二

#### (四)(五)(六)(七)の結論

長々といろくの奇妙な鳥類について話しましたが、皆さんも己に於讀みになつて御承知の通りどの鳥でも皆雄ばかりが美しくつて、而もよい聲を發し、雌はまことに御粗末で啞が多いです何んと不思議な現象ではありませんか。

此が所謂雌雄淘汰と申すもので、つまり動物界では雌の數よりも雄の數が多いものですから、其

生殖の目的を達する爲めには勢ひ數の上からして雄は雌の歡心を買ふて其愛を得んければなりません。雌の歡心を買ふのには、自然其容貌色彩を美麗にして雌の注目する様にせねばなりません。乃で雄は或は美しい羽をつけ、或は異様な冠を着、或は美しくい聲を發する様に勉めるのであります。然し今鳥が其雌の歡心を得ん爲め白くなりたいたと思つた處で、早速あの黒い羽が白くなる譯のものでもなく、幾らもがいても鳥の頭にカサドリの様な冠を直々着るといふことは出来ませぬ。

然らば孔雀の羽極樂鳥の尾の様なもの、何うして得たのかと申しますと、決して一朝一夕に得たものではありませぬ。ずつと昔の祖先が其生存上必要にせまられて、その羽色を變へるとか、いろいろな聲を發して、雌の注意をひく様にとつとめ

ましたのが、親から子に傳へ、子から孫、孫から曾孫……といふ様に、經驗から經驗、遺傳に遺傳、といふ風に遂に今日の様な美しい姿を得る様になつたのであります。だからこの様になる迄には、どれ位の年月と、どれ程の苦心とを積んだものかは、想像でも及ばぬ位であります。

鳥類の雄の美麗な事に説き及んだ序ですから申しますが、熱帯地方の鳥類は雌雄に係らず。凡べて其彩色が花々しいです。

御承知の通りカナリヤ、とか、インコウなどは赤青黄白など、人が染め分けた様にうつくしいでせう、これは前に申しました雌雄淘汰とは少し趣が違ひまして、自然淘汰の結果なのです。

自然淘汰といふのは何う云ふ事であるかと申しますとこの世界の中に棲んでゐる澤山な動物は、

皆何の爲めに世に出て來たのかといへば、どれも其子孫を増殖しえうといふ考なのです。狐も犬も猫も馬も牛も羊も皆其子孫で以て、この世の中をうづめてしまはうと思ふて居るのです。

先づ何れ位増えるかと申しますと、一疋の鼠からして一年に生れる鼠の数は所謂鼠算で増まして八千に及ぶといふとです、鯉鮒は一年少くとも二十万、蠅は二百万、サナダムシなどは体中皆卵で充されて居るのですから、無慮一千五百億、アブラムシの如きは其産卵數丈發育したら、數年間にして全世界に充つる位に増えます。一疋のものでこれ位な増方をするものが、一種の中には何万何億といふ數があります。その何万何億といふ數がある種類がまた三十万余もあるのですから、若しも其子が悉く生長したら一日の中にも全世界に

満つる位です。

限りある世界に限りある食物を食ふて生長するものが、斯く大數が生存してはとて一日の日も覺束ない、そこで強者が弱者を凌ぎ、大は小を合すといふ生存競争が起るのであります。だから若しも周囲のありさまと少しも似てゐない形や色彩をしてゐたら、強いものが見付けると直ぐ食つてしまひますそこで、皆外界の事狀に適應しえうと勉めるのです。

全体熱帯地方は四時樹木青々として、いろ／＼の花が咲き綻び丹青を盡して居ります。ですからそこにすむ鳥類も自ら其体色をそれらの色彩に似せねばなりません。それで赤や青を取り交せて美しい色をしてゐるのです。

これが即ち自然淘汰の原理としては熱帯地方の鳥

類のうつくしい理由です。

話が随分他へ轉じましたがこれから後へもどつて肝心の話に入りませう。さて此次から申しますのは矢張奇妙な動物でありまして暫時昆虫の方に話を向けませう。これは次號に譲つて今回はこれだけ。

## 珠鷄の話

在三河安城 久永達倫

編輯の切日の切迫に近き、俄の思ひ立ちに『珠鷄の話』をものして、貴紙の餘白を借らん。

米國のポトリ、イガジン、Poultry Magazine. (家禽雜誌) から譯して書こう。

珠鷄とは漢名なので、英語はギユニアホール Guinea Fowl. と云ふので、女子供にわかる様に言